

内分泌・代謝内科

研修の特色

内分泌・代謝内科では、内分泌領域として視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺を、代謝疾患として1型/2型糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、骨粗鬆症、肥満と幅広い分野を対象としています。Na、K、Ca、Pといった電解質異常の外来・入院患者の診断治療も数多くおこなっています。平均外来延べ患者数約2万人/年、入院患者数約8000人/年、新患患者数約400人/年と患者数においても十二分に幅広く研修できる基盤もあります。各種負荷試験から先進医療まですべからく網羅し、指導医3人体制のきめの細かい指導を行っており聞きやすい、学びやすい環境です。院外学会活動も積極的に行い初期研修時より糖尿病学会総会、内分泌学会総会、甲状腺学会等において複数回の発表や学会誌への論文投稿も行い学びの場を広げています。指導医3人以上に初期研修医、後期研修医やさらに医員スタッフという年次の異なる多く仲間と一緒に学ぶことができそれは大変有意義なことと考えています。

公立陶生病院内科では内科専門分野7科に加えて感染症科、緩和医療とすべてが揃っており様々なサポートやup-dateな内容を常に学ぶことができます。



専攻医からのメッセージ

私は初期研修から当院で研修を行い、専門医としての研修も継続して行っています。自分が当院を選んだ理由は、内科各科に経験豊富な指導医がいて若手医師に丁寧に教えてくださる環境があり、内科医として必要な内科全般の知識が得られると感じたからです。中でも内分泌代謝内科は、上級医の先生方が熱心に指導してくださり、困ったときはいつでも相談できるととても働きやすい環境だと思っています。日常診療では、糖尿病やさまざま電解質異常を始めとする代謝疾患を豊富に経験でき、下垂体や副腎などの稀な内分泌疾患も経験することができます。日常診療を通して専門医としてしっかり学ぶことができ、またそれを積極的に学会発表なども行っています。少しでも当院・当科に興味を持っていたら、是非一度見学にいらしてください。